濁川でもスタート
松浜に続き空ビン回収

「空ビンを資源として再利用しよう」という空ビンリサイクルが、松浜に続き十月から濁川地区全域で行われました。十一月二十一日に行われた第二回目には前回よりも多い一・六㌧が収集されました。

十月から空ビン回収をスタートさせたのは西名目所、名目所、濁川東中・上・下、つくし野、新崎、松濤自治会など十二自治会、世帯数約千百戸、約五千人の濁川地区。

九月から地元自治振興会での話し合いや部落説明会が行われ、十月から一回目が実施されるというスピードぶり。地元の自治会、婦人会の理解、協力の程がうかがわれます。

二回目の十一月二十一日には前回よりも多い一・六㌧が持ち寄られました。

濁川地区より早く、四月から本格実施していた松浜地区も、八月から全地区で回収が行われ、夏場、清涼飲料水の時期には一回で九㌧など威力を発揮しました。

空ビン回収は、全国各地で行われ、県内でも豊栄市、亀田町などで実施されています。

新潟の場合は、松浜婦人会などの運動が発端となって実施された住民主導型。

具体的には、月一回空ビン回収日を設け、各家庭でためておいた空ビンをステーションの所定の袋につめて回収。これを市の回収車が集め、リサイクル業者に、一㌔二円で売却します。

ステーションの指導員には地区の婦人会などが交代で当たり、早朝六時から八時まで、袋につめる手伝いをしたり、口を閉じる作業をします。

西名目所自治会婦人会長の**関本**シヅさんは「良い悪いもやってみなくては分からないし、松浜の話を聞いたりして始めました。みんな真面目に協力してくれます。売却金も有効に利用して、長続きさせたい」と語っています。

松浜の**小野ツネ**（松浜六）さんは「冬に向って指導員が大変なんですが、協力が高まるように口コミでPRしたり、工夫していきたい」と語っています。

10月からスタートした濁川の空ビン回収

健康一口メモ

風疹抗体の検査

妊娠と奇形の問題は、だれしも心配なことです。先天異常児出産の原因は、多くは不明ですが、先天性風疹症候群のように、原因の明確なものがあり、これは妊娠中の風疹を減らすことにより、予防できるので大変重要です。風疹は、はしかと違ってビールス性疾患で、一度かかると、二度とかからないので、これを利用して、かかったことのない人に予防注射をして、免疫をつけておけば安心です。免疫の有無は血清中の風疹抗体を調べることにより分かります。これによって過去に風疹にかかったかどうか分かります。よくある例は、「わたしは風疹になったことがあるわ」と言う人たちの検査をしてみますと、意外にも免疫のない人がみつかります。これは風疹と間違いやすい病気がいろいろあるためです。したがって、妊娠前には一応「風疹抗体の検査」を受けておくことをお勧めします。五体満足な赤ちゃんは、何よりの宝ですから。

（市医師会）

まくら贈大作戦
歳末慰問品だよ

白山作業所

「私たちの作った〝ソバがらまくら〟を使って下さい」と心身障害者小規模通所授産施設「白山作業所」（西山昌一所長、所員十四人）では、市が寝たきり老人の介護人に対して贈る、歳末慰問品作りに一生懸命です。市内には、六十五歳以上の在宅の寝たきり老人が約八百人おり、家族は日夜介護におわれています。このため市では、四十八年から毎年暮れに寝たきり老人の介護人に対して〝ご苦労さまです〟と感謝の意味を込めてシーツやクッションなどを贈ってきました。昨年から障害者の自立の手助けにと、同作業所で作った製品を使い始めましたが、今年はソバがらまくら。

同作業所は、市内の心身障害者が自立の道を求めて、まくらやクッション作りなどの共同作業を行っています。十人くらいが午前十時から午後五時まで作業し、一日約四十個のまくらを作ります。最後の手作業の布を閉じるところは、自分たちで出来ないため、ボランティアが一週間に一、二回、四、五人ずつ訪れ手伝ってくれます。出来たまくらは、十二月二十日ごろまでに民生委員を通して介護人に配られます。

西山所長は「ソバがらまくらは景気がいいときは月平均百個ぐらい売れたが、今は五十個ぐらい。まだ在庫がたくさんあるのでぜひ使って下さい」と呼び掛けています。

購入の申し込みは、白山作業所（関屋昭和町三、☎32―〇〇〇三）へ。

まくら作りに精を出す白山作業所の人たち

新潟の自然 ⑥

見渡す限り巨大な葉をひろげるオニバス
（寺田町　柄沢朋暢氏　提供）

オニバス　その1

オニバスは日本最大の葉面を持つ一年草の水草で、佐潟と瓢湖が国内の北限にあたる。昔は福島潟をはじめ県内各地にあったが現在では生育地は少なくなった。

福島潟ではドンバスと呼び、葉柄を食用にしていた。英名は**Gorgon-plant**（ギリシャ神話のメズサの首に出てくるゴルゴンの老婆に似て全体刺だらけで醜悪の意か？）という。佐潟では現在地元名を聞かず、ほとんど利用もされていない。

オニバスは年により消長の激しい植物であるが、佐潟では勢力旺盛の年は全水面に繁茂し、全国有数の規模となる。五月に発芽し、七月末から急速に葉を拡げ、最大の葉は径一・四㍍に達する。八月末には水面に赤紫の美しい花を開き、十月に熟した果実の表皮が腐ると多数の種子を水面に散らし親株は全部枯れてしまう。この点蓮根を持つハスとは性質が全く異なる。

尾崎富衛（中央高校教諭）

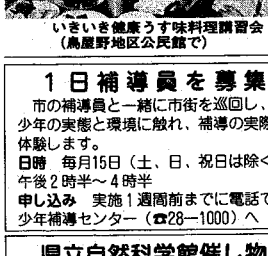
健康おばさんに
厚生大臣賞
食生活改善推進委員協議会

「強い子を育てよう食事講習会」「いきいき健康うす味料理講習会」。若いママさん、成人病が気になるお母さんなら講習を受けた人も多いはず。主催しているのは市の食生活改善推進委員協議会です。

この協議会が十五年間の実績をかわれ、去る十月、全国食生活改善大会で、五十八年厚生大臣賞を受賞しました。

同協議会は昭和四十二年、東・西保健所の栄養教室から発足。委員は、毎年開かれる栄養教室終了者に委嘱され、現在では三百九十七人。減塩食の普及活動や幼児、主婦の食事実態調査などを手がけてきました。最近ではガン予防の食事づくりの普及にも力を入れ、「隣の健康おばさん」として手当て活躍しています。

協議会の林愛委員長は「地道な活動が認められてうれしい。なんといっても健康は食べることから。バランスのとれた食事の普及に今後も努めたい」と語っています。


いきいき健康うす味料理講習会
（島屋野地区公民館で）

1日補導員を募集

市の補導員と一緒に市街を巡回し、青少年の実態と環境に触れ、補導の実際を体験します。

日時　毎月15日（土、日、祝日は除く）午後2時半～4時半

申し込み　実施1週間前までに電話で青少年補導センター（☎28―1000）へ

県立自然科学館催し物

会場　県立自然科学館

申し込み　12月15日（消印有効）までに、往復はがきで会場（〒950 女池字蓮潟東2010―15、☎83―3331）へ

	日時	定員	参加費
バードウォッチング	12月25日・午後1時～3時	小学生以上50人	100円
大短6で 丈ちんをつくろう	12月25日・午前9時45分～午後零時半	小学1年生～中学3年30人	300円

新潟大学商業短期大学部（夜間、3年制）

59年度学生募集

募集人員　商経学科100人（経済専攻60人、企業経営専攻40人）このうち30%は推せん入学として選抜　※共通一次学力試験の受験は不要

問い合わせ　新潟大学商業短期大学部学務係（〒951 旭町通2-746、☎23―6161）

〈推せん入学選抜〉

出願期間　1月9日～14日（締切日必着）

第2次選考日　2月7日（1次は書類選考）

〈学力試験選抜〉

出願期間　2月9日～15日（締切日必着）

試験日　3月6日

教育110番開設

期日　12月27日まで毎週火、金曜日午後6時～9時

電話番号　☎41―9551（教育をよくする新潟市民会議）

献血車「ゆうあい号」

月日	時間	会場
12・6	正午～午後4時	カミー／古町前（古町7）
12・8	〃	〃
12・7	午前9時～11時半	三栄製品㈱（紫竹山）
12・7	午後1時半～3時半	新潟県衛生研究所（曽和）
12・8	午前9時半～正午	NHK新潟放送局（川岸町1）
12・8	午後1時半～4時	産業病院（青山7）
12・9	午前9時～11時半	新潟地方貯金局（八千代1）
12・9	午後1時～4時	キューピット第山店前（第山4）
12・10	午前8時45分～正午	御マルタケ（上所島）
12・10	午後1時～4時	ウオロク女池店前（女池）
12・10	午前10時～正午 午後1時～4時	市役所前

保健婦による老人出張相談

月日	会場	時間	対象
12・8	石山荘	午前10時～正午 午後1時～3時	60歳以上
12・9	島屋野荘	午後1時半～3時	

成人病食事相談

日時　12月13日午前9時～11時

会場　東・西保健所

申し込み　電話で各会場へ

食品営業者の更新申請

12月に更新申請する地区　東中通、田中町、二葉町、大畑町、南浜通、北浜通、旭町、水道町、営所通、寄居町、南横堀町、西中町、西船見町、学校裏町、医学町、寺裏通

該当する人は忘れずに申請をして下さい。組合加入者は組合の指導員の所へ申請用紙をもらいに行って下さい。

申請用紙は各食品衛生組合事務所にあります。